



3 年現代文
「ワスレナグサ」②
星野道夫

教科書

p 1 9 1 ~ 1 9 7

第一段落の読解①

「第二段落を読みながら、「なぜ？」と「どうして？」と問うことが、立ってゐるのと同じに？」と引いてみよ。

アラスカで暮らす前

ただ旅人であることに、ある疲れとも
の足りなさを感じ始めていた

(p191 1行)

before

この土地に根を下ろすことを決めてから

風景は同じなのに、自然も、人々の暮らしも、曇りガラスを取り除いたように透けて見えている

(p191 6行)

after

問

アラスカに暮らして、僕はどのよう
に変わったのか？

第一段落の読解②

問 アラスカで暮らす前と後で、僕はどのように変わったのか？

〈アラスカで暮らす前の僕〉

「旅人」

「観客」

アラスカの人や自然を
ただ見ているだけの存在。
アラスカの人や自然とは
つながりを持たない存在。

before

〈この土地に根を下ろすことを決めた後〉

彼らの生命がどこかで自分の短い一生と重
なってくる。

生命あるものだけでなく、この土地の山や川、
吹く風さえも自分と親しいつながりを持ち始
めている。

after



二つをまとめて

アラスカの人や自然が、自分の人生と親しい
つながりをもって感じられるようになった。

次は

「妻との結婚でさらに変わる僕」

第二段落の読解③

〈妻との結婚でさらに変わる僕〉



アラスカの花の世界を見つめ直した

以前の僕

大きな自然にばかり目が向いていた
(カリブー・ザトウクジラ・人々)



見えやすいもの

妻との結婚後

アラスカの花の世界



身をかがめてのぞく風景
(対象に近づいていかないと目に入らない風景)

第二段落の読解④

〈アラスカの花の魅力〉

アラスカの花の魅力とは？

手がかりになる部分に傍線を引こう

短い夏の季節に咲く花々が、どれだけ人々の心に安らぎを与えるのか

もしこの土地に冬がなければ、そして一年中花が咲き乱れているとしたら、人々はこれほど強く花への思いを持ち得ないだろう

「短い夏」と対応している言葉は？（第二段落から）

（自分の）短い一生

「この土地の冬」はどんなものか？

厳しいもの。

厳しい冬に耐え、短い夏の季節に懸命に咲く美しさ。

せうに言うならば…

- ・自分の短い一生
- ・人間の短い一生
- ・あらゆる生き物の限りある生命

これらの命が、短い生を懸命に全うする姿につながってくる。

第二段落の読解 まとめ

はアラスカに根を下ろすことを決めた僕は

アラスカの人や自然が、
自分の人生と親しいつ
ながりをもつて感じら
れるようになった。

妻と結婚後さらに、

アラスカの花が、厳しい
冬に耐え、短い夏の季節
に懸命に咲く美しさを見
つめなおした。

※次回は第三段落

「ワスレナグサへの思い」です。